
件名 ツキノワグマ 出没説明会

日時 2025/10/20(月) 16:30~18:40**場所** 鹿島南蓼科ゴルフコース レストラン

出席者

チェルトの森別荘オーナー 64名

槻木区民 5名

長野県諏訪地域振興局林務課林務係 伊藤武鳥獣対策専門員

茅野市産業経済部農林課鳥獣被害対策室 岩下弘樹係長、小泉幸彦主査

鹿島リゾート(株) 福田浩二社長、大貫博司管理事務所長、和田敬司総務部長

1. 配布資料に基づき、下記の説明を行った。

①敷地内出没状況と対応：大貫所長 ※資料④10月19日の出没状況については当日は口頭で説明

②茅野市内での出没状況：小泉主査

③注意事項や熊の生態：伊藤鳥獣対策専門員

2. 質疑応答 ※敬称略

ホナ：鳴岩に設置されているような鉄フェンスを、行政の補助等も使って、柳川の周囲にも設置して欲しい。

福田：フェンスを設置するなら柳川だけでなく敷地の全周に設置する必要があると考えている。フェンスが無い部分は延長約10kmあり設置に約10億円かかるため、正直に言って設置は難しい。行政から補助が出るかは調べてみる。

ホナ：別荘のウッドデッキに糞がついていたので、熊の糞でないか見て欲しい。冬眠は標高がどのくらいの所で、いつの期間に、どんなところで行うのか教えて欲しい。

伊藤：冬眠は11月中旬から12月頃に始まり3月頃まで。標高は特に関係なく集落近くの森林でも冬眠する。洞穴だけでなく、倒木の根元の隙間や岩のちょっとした隙間などでも冬眠する。糞は後ほど見てみる。

ホナ：冬眠は外気温との関係はないか。

伊藤：気温が何度なら冬眠するといったことは把握していない。ネット等に掲載されている情報については、その出典がしっかりしたところか確認してみたい。

ホナ：庭で作業するとき大きな音が出る熊よけホーンを使って良いか。こういったものを頻繁に使うと熊が音慣れをしてしまうことはないか。熊鈴で逆に熊を呼び寄せることは無いか。のらぎあを送迎の時に一緒にゴミを持って行って管理事務所で捨ててよいか。蓼科ビレッジや東急では熊は出ていないと聞いており、熊が出ているチェルトの別荘地は売却時に不利になるのではないか。音で人の存在を熊に知らせた方が良いのか。

伊藤：長野県としては、音で熊に人の存在を知らせて下さいとしている。森林作業する人は熊鈴をつけており、それで熊がよってきたという情報は聞いていない。熊にとって魅力的なものを人が持っている事を熊が学習していれば寄って来る可能性はあるが、この地域ではそういった情報は今のところ無い。油断はできないが、八ヶ岳地域は熊の推定される生息個体数は少なく、他の地域に比べると熊と遭遇する確率は低い。

大貫：熊よけホーンは使って良いが、常時使うなら周り別荘の方に声掛けをお願いしたい。のらぎあ

送迎時にゴミを一緒に持って来て管理事務所で捨てるのは問題ない。

岩下：東急や蓼科ビレッジ方面では、今年は熊は出ていないが、令和5、6年では蓼科湖方面でも目撃情報がある。

ホナ：トレイルカメラは何か所につけているか。

大貫：目撃情報のあった三か所につけている。

ホナ：トレイルカメラを増やして熊がどう移動しているかといった情報を把握して欲しい。個体数が多いから人身被害が増えているという報道があり、捕獲や駆除は行わないのか。目撃情報がある所に檻を設置できないか。

大貫：トレイルカメラは設置場所など検討して増設対応する。

伊藤：状況によっては捕獲を許可させていただく。今年は諏訪市や富士見町で捕獲を実施している。

捕獲する場合は捕獲檻の中に餌を設置し熊を誘引する必要があることから、捕獲された熊以外の個体もおびき寄せてしまう可能性がある。また絶命させるには銃を使うが、他者にケガを負わせたり他者の財産を破損したりしてはいけないといった厳しい規制があり、銃が使えるエリアは限られている。熊は一日に数10km移動するものもあり、なわばりももたず、複数の熊が行動している可能性がある。したがって、捕獲檻は熊を誘引しても、銃を使用しても問題が無い所に設置する必要がある。

ホナ：捕獲した熊をそこで銃で撃たないで、他の場所に移すというケースもあるのではないか。

伊藤：捕獲檻の移動は非常に大変で、捕獲檻は重さが数10kgあり熊の体重を合わせると100kgを超えることもあることから、クレーンなどで運ばなければならず経費がかかるため、銃が使えるところで捕獲檻を設置している。

ホナ：熊被害がどんどん増えてきたときに自治体として、次の対策をどうするか聞きたい。

伊藤：目撃だけで捕獲することは無いのが実態。長野県内はたいていの地域で熊が生息しており、いるからといってすぐに捕獲とはならない。ただゴミステーションに寄ってきているといった状況であれば、捕獲という選択肢も出てくる。農業被害が出ていて捕獲するという事もある。当然人身被害が考えられるところでは捕獲を許可している。

ホナ：庭に栗の木があって栗がおちているがどうすれば良いか。

伊藤：落ちた栗はできるだけすぐにかたづけて欲しい。できれば伐採した方が良い。

ホナ：資料に錯誤捕獲とあるがどういう意味か。

小泉：今回は鹿の捕獲を目的としたくり罠に熊がかかったというもの。

伊藤：捕獲には許可が必要で、捕獲する鳥獣の種類などについて申請しそれに対し行政が許可する。違う種類の鳥獣がわななどにかかることが錯誤捕獲。

ホナ：夜間に熊に出た時などは、警察に直接連絡してよいのか、管理事務所にまずは連絡するのかなど、連絡体制を明確にして欲しい。連絡するにもドコモの携帯が繋がりづらい所があり、基地局を増設するなどしてそういった状況を改善して欲しい。

大貫：夜間に管理事務所に電話すると、緊急時用の夜間当番の電話番号を案内しており、そこに連絡をお願いしたい。危険が迫っているというような場合は、勿論直接警察に連絡して構わない。携帯の電波品質の改善については多くの方から要望を貰っており、地形などによってつながりづらい所がある。先日も、ドコモ、au、ソフトバンクなどに連絡して基地局の性能チェックをしてももらった。なかなか改善につながっていないが、携帯の各キャリアへ当社からも改善の働きかけを続けていく。

オーナー：錯誤捕獲した熊はその後どうしたのか。

岩下：捕獲したところから遠い所の林内に放獣した。

オーナー：草が生い茂っていたり倒木があったりところを、きちんと管理して欲しい。

大貫：空き地には、当社名義になっているところと、オーナーに土地を売却済みであるものの家が建てられていないところの二種類がある。当社名義の所は倒木などあれば処分、下草が生い茂っているところは下草刈をするというような対応を行っていく。オーナーが持っていて建物が立っていないところはオーナーの管理になるが、危険な状況等になれば、そのオーナーに整備をお願いするという対応を行っている。

オーナー：長野県、茅野市では個体数は調べて把握しているのか。捕獲することはほとんどなくて目撃情報を集めているだけか。今年の日撃情報は、長野県、茅野市では多いのか。長野県、茅野市の対応は目撃情報を集めるだけなのか。

伊藤：鳥獣保護管理法に基づき第二種特定鳥獣管理計画を作り、ツキノワグマの保護管理に取り組んでおり、適正な個体数を維持することを目標とした計画となっている。長野県では生息個体数の調査を行っている。令和二年の調査では長野県内で約3,800頭～10,000頭、中央値で約7,200頭であった。5年毎に調査を行うこととしており、増えているだろうという感覚。長野県は広く、また熊は動き回るので、調査結果には幅がありこの頭数は目安という事で理解願いたい。八ヶ岳エリアは推定される生息個体数はもともと少ないが、増えている傾向にはあるかもしれない。目撃情報は市町村と連携して収集しており、長野県、茅野市ともホームページで公開している。目撃情報は生息個体数の調査や、注意喚起に活用している。目撃情報について、諏訪地域では昨年より例年より少し多かった印象。今年も昨年と同じ位であり、今年がすごく多いという感じではない。

岩下：令和4年から本件担当しているが、茅野市では昨年も令和5年も目撃情報はあり、今年も同じ感じ。錯誤捕獲は昨年4件で、今年は1件。茅野市では熊は西の方、南アルプスの方が多い認識であったが、今年チェルトの森でカメラに映ったことなどから、こちらの地域にもいるという今までと地域的に違う印象がある。ただ茅野市として個体数を全て把握できているわけではないので、数が増えている減っているとは言えなく、申し訳ない。できるだけ早く目撃情報をホームページで周知することで注意喚起を促している。檻については、玉川地区で農地に熊がいついて、人身被害も懸念されたので、長野県の許可を得て仕掛けたが捕獲はできなかった。その後カメラで監視したが、熊がこなくなったため檻は撤去しており、今は檻を設置していない。なので、茅野市では目撃情報に基づいて、捕獲を試みたという実績はある。

オーナー：チェルトと三井に出ている熊は同じ個体か。

岩下：正直なところ、同じ個体かどうかは分からない。農業大学、チェルト、三井と地域的につながる目撃情報が続いたので同じ個体ではないかと思ったが、猟友会に聞くと、昔三井やチェルトの上の方にも熊がいたと話しており、同じ個体一頭というわけではないのではという事であった。三頭の日撃情報もあったので、複数頭という可能性もある。

オーナー：チェルトで働いている鹿島リゾートの従業員がどのように感じているかや、鹿島リゾートの熊出没に関する考え、ポリシーを聞きたい。自然の中で人間と動物が共生する、心地良い別荘地としてのポリシーを聞きたい。

福田：朝から屋外作業を行っている従業員もおり、当社の従業員も非常に怖がっていて、熊鈴をつけたり、熊撃退スプレーを備えたりと、そのケアも頑張っている。当然別荘オーナーや従業員

員を守らなければならないし、熊の被害により、別荘地が売れなくなったり、ゴルフ場をクローズしなければならなくなったりすると会社の経営にも大きな影響がある。なので、出来る対策は本日説明したような内容になるが、鹿島リゾートとしても本当に熊の被害がでないようしていきたいと思っている。当社だけでは分からないことも多いので、皆様から情報を頂いたり、県の方に教えて頂いたり、他事例を研究するなど行っていく。ただ、個人的には我々人間が自然の中に入っているの、被害は起こさないようにしたいと思うが、熊などを全くいなくするというのは無理かなとも思う。

オーナー：以前お願いの文書も出したが、ススキが大きくなって見通しが悪い所がある。鹿島リゾートでは車で監視を行っているが、歩いてみないと分からないところがあるので、鹿島リゾートでも歩いてみて管理を行って欲しい。以前は熊や猪など人に被害を与えるような動物はいなかったが、このように熊が出没する状況になっており、今日色々出た意見を踏まえて取り組んで頂きたい。

大貫：通常は道路際等で車の通行上見通しが悪いところを草刈り、伐採処理をしているが、今後はその範囲を広げて動物が隠れるところを少なくするよう行っていきたい。

オーナー：ゴルフ場ではボランティアを募ってコース整備していると聞いている。同じように、別荘地の草刈りも、別荘オーナーのボランティアを募って一緒に行うというのも一つの方法であり、検討して欲しい。

大貫：貴重な提案であり、社内で検討したい。

以 上